

2020年5月10日 司祭 越山 哲也

八戸聖ルカ教会

復活節第5主日 メッセージ 「イエス様が用意してくださる私たちの居場所」

福音書 ヨハネによる福音書14章1節～14節

主の平和が皆さんと共にありますように。

先日、こんなニュース記事が目にとまりました。弘前市のあるラーメン店がコロナウイルス予防のために「八戸ナンバー」の車お断りの張り紙をお店の前に掲示したところ大反発を受けて、店主はその張り紙を外して「コロナウイルスの蔓延を防止するために行ったことだが、やりすぎだったと反省します」といった具合の事を語っておられました。

私の車のナンバーは八戸ナンバーです。今から5年前に前任地である会津若松から乗っていた車を今も乗っていますが、八戸赴任当時はまだナンバー変更をせずに会津ナンバーでしばらくいました。

するとよく「会津若松から来られたのですね」と声をかけて下さる方がおりました。これまであまり気にしていなかったのですが車のナンバーに記載されている地名は数字よりも意外と目に留まるのだなと思いました。そういう私も無意識のうちに新型コロナウイルス禍の日々の中で、車を見たとおもわずナンバープレートに視線が行っていることに気づきます。

もう一つは、今回の緊急事態宣言延長の意義は「医療体制を崩壊させない」ための措置であるということ、そして懸命に毎日働かされている医療従事者の方々のためを覚えて感謝しましょうということが言われています。そのこと自体に私は異を唱えたいわけではなく、本当に感謝の気持ちを持っています。ただ私の感じる違和感はその言葉が誰に向かって言っているのだろうか、本当に医療従事者の方に届いているのだろうかという事です。安全地帯から言っていないでしょうか。東日本大震災を思い出します。

「がんばろう、東北」「頑張ろう、福島」と日本中で叫ばれていました。とても励まされたのですが、私はいつも違和感も感じていました。「一体、誰にむかって頑張ろう」と言っているのだろうか・・・

当事者にその言葉が届いていない（届いていたとしても心に響かない）のではないだろうか。そして実際にコロナ感染者が多い地域のナンバープレートに乗っている方、また、医療従事者の方への差別、また休業要請に従わないお店への誹謗中傷が各地で起きています。

「なぜ、そんな事をするのだろう」と思います。しかし、同時に私の心の中にも二つの心があります。「頑張っておられる方々のために祈ろう、そして応援しよう」という思いとやはり何となく、会うことに対する躊躇、モヤモヤした気持ちも正直あります。人の心は本当にもろいと実感しています。

そして、そういう私も安全地帯から言葉を発していることが何と多いことだろうか。

そんな私を救ってくれたある言葉があります。

それは池間哲郎さんが書かれた著書『私の夢は大人になるまで生きることです』の最後に書かれています。抜粋して紹介いたします。

「ありあまるほどの食べ物がある恵まれた環境の中で暮らしている私たちですが、そうした豊かさが私たちに「命の尊さ」や「生きることの大切さ」を見失わせているのではないかと感じています。だからこそ、日本中の子どもたちがアジアの貧しい子どもたちから真剣に生きる大切さを学んでほしい、そして一生懸命生きることの大切さに気づいてほしいと思っているのです。

だから、一番大事なボランティアは自分自身が一生懸命に生きることなのです。一生懸命生きる人じゃないと、本当の命の尊さはわかりません。真剣に生きる人じゃないと、人の痛みや悲しみは伝わってこないと思うのです。誰かのため、人のためではなく、自分自身懸命に生きる。それが私たちにできる一番大事なボランティアなのです。」

「自分を愛するようにあなたの隣人を愛しなさい」と言われたイエス様の御言葉が響きます。そして、罪をおかして女性に対して石を投げつけて責めていた民に、「誰も罪を犯したことがない者が石を投げなさい」と言われ、民は石を投げるのをやめて女性のもとからいなくなった聖書の物語が心に浮かびます。

本日、復活節第5主日の福音書はヨハネによる福音書第14章1節～14節です。

主イエスの弟子であるトマス、そしてフィリポの二人がイエス様と一緒にいながらなかなかイエス様の教えが理解出来ず、どう生活したら良いか悩んでいます。そんな彼らにイエス様は語りかける場面です。

その中にこんな1節があります。「わたしの父の家には住む所がたくさんある。もしなければ、あなたがたのために場所を用意しに行くと言ったであろうか」（ヨハネ 14章 2~3節）

イエス様が言われる「場所」って何でしょうか。それは一人一人がそれぞれ心安らぐ居場所だと思います。それはみんな違うと思います。そしてそれは「わたし」にしか分からないのではないかと思います。私たちが今おかれている生活環境、家計状況、仕事の内容、そして体調、心の状態は全員違います。ですから言葉が氾濫するのは当然であり、そして心に響く言葉もあればそうでないものもあるのだと思います。

でも私たちが共通して求めているもの、それは「居場所」ではないでしょうか。イエス様は言われます。「わたしの父の家には住む所がたくさんある。」

神様の国（真に平和な状態）はどうやらたくさん居場所が用意されているみたいです。私たち一人一人に最もふさわしい居場所が用意され、そしてその準備をイエス様がしてくださると言っておられるのです。私はこの御言葉に励まされ、今週も一生懸命に生きて行こうと思います。

皆さんお一人お一人がそれぞれ様々な環境にあると思いますが、日々一生懸命生きて行くことが本当に大切な事であり、イエス様はそんな私たちが心安らぐ「居場所」を準備するために共に生きていてくださっていることを信じたいと思います。